足立区では
やりたいことが
叶うらしい。

区長メッセージ

令和7年度から、区制１００周年を迎える１４年度までを結ぶ、新しい「足立区基本計画」がスタートしました。

公募の区民委員を含む２０人の審議会委員の方々との議論を経て、策定したテーマは「やりたいことが叶うまち」。これまで注力してきた「課題解決」に一定の成果が表れ、「魅力創出」という新たなステージに入ったこと、そしてそれを支える原動力である区民一人ひとりの「やりたい」を応援していくべき、と区の取り組みを後押ししていただきました。

令和４年度に内閣府からSDGs未来都市の認定を受けた足立区の綾瀬では、「あやセンター ぐるぐる」を中心に既に大勢の区民の皆様の「やりたいこと」が実現し始めています。

あなたの力をフルに発揮して、足立の魅力を更に大きく膨らませてください。

足立区長（平成１９年６月就任）　近藤 やよい

足立区職員採用案内＆区政要覧２０２６　令和８年１月発行
発行／足立区　〒120-8510 東京都足立区中央本町 1-17-1
編集／足立区 総務部 人事課
tel／03-3880-5831　mail／jinji@city.adachi.tokyo.jp
写真（足立の花火）／あだち街フォトコンテスト投稿作品（撮影 Taloon）
写真協力／（一財）足立区観光交流協会、加藤有紀

足立区採用HP

足立区

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

足立区では
やりたいことが
叶うらしい。

ADACHI CITY

足立区職員採用案内＆区政要覧2026

やりたいことが
叶うワケ
1

足立の花火が開催される荒川河川敷は、広い空と水辺の空間が心地よい区民の憩いの場所

みんなの夢を全力で応援するまち

水と緑が豊かで、都会と郊外の良さを兼ね備える足立区。
大きな変化の時を迎え、
今めざすのは、「やりたいことが叶うまち」。

水と緑が豊かなまち

人口約70万人。足立区は人口が23区で４番目に多く、面積は3番目に広い大きな区だ（2025年11月1日現在）。都心にありながら四方を川に囲まれ水と緑が豊かで、都会の利便性と比較的物価が安いことや活気と人情が残るまちの雰囲気の良さなどが注目され、若い世代の人口は増加傾向にある。また、大規模マンションの建設や、駅周辺の再開発、大学や大学病院の誘致なども続き、足立区は今、大きな変化の時を迎えている。

足立区はタコさんすべり台発祥の地ともいわれ、区内に11体のタコがいるなど、ユニークな公園が多い

やりたいことが叶うまちへ！

変化のただ中で足立区は2025年、区制100周年にあたる2032年度までの方向性を指し示す「足立区基本計画」を新たに策定した。そのテーマは「やりたいことが叶うまち」。解決しなければ区内外から正当な評価が得られない、足立区のボトルネック的課題「治安」「学力」「健康」「貧困の連鎖」の解決に一定の成果が現れはじめ、新たな価値の創造という次のステージの幕が上がる。

足立区ではこれまでも、起業する人の支援に力を入れてきた。「創業するなら足立区で」のキャッチフレーズに違わず、足立区の創業支援は充実している。2006年から実施している創業プランコンテストでは、最大200万円の補助を行う。他自治体と比較してもかなり高額だ。また、創業初期の事業者を伴走支援するメニューも、経営相談、創業支援施設等、豊富だ。

起業という大きなステップはもちろんのこと、身近な夢も実現できる足立区へ。次の一歩を踏み出した。

２０２２年度「創業プランコンテスト」で最優秀賞を受賞した（株）薬Zaikoの海老沼さん

何かを始めたい人が集まる「あやセンター ぐるぐる」前で。様々な人や活動がこの場で交わる

200件以上の「やりたい」が実現

足立区は2022年、内閣府の「SDGｓ未来都市」「自治体SDGｓモデル事業」にダブル選定された。モデル事業として翌2023年にスタートした綾瀬駅ガード下の「あやセンター　ぐるぐる」は、20年近くシャッターが閉まっていた店舗をリノベーションした空間。「薄暗く、怖い」などといわれる場所だったが、何かを始めたい人、応援し合える人が集まる場となり、やってみたいことを実現していくコミュニティの循環（＝ぐるぐる）を生み出している。

開設から2年が経過し、読書会やマルシェ、コンサートの開催など、集う人たちの「やりたいこと」を200件以上実現。ここで積んだノウハウをベースに、竹の塚エリアでも「やりたいことを叶える」ためのトレーラーハウス型交流拠点「たけのつカー＆パーク」が2026年４月、誕生する。

「やりたいことが叶うまち」は、今後ますます進化する。

綾瀬駅ガード下で20年近くシャッターが閉まっていた店舗をリノベーションした「あやセンター ぐるぐる」。「やってみたいを、やってみる。」をコンセプトに、「何かやってみたい」人の想いを形にする手伝いをしている

やりたいことが
叶うワケ
2

東京電機大学のワークショップ「大学で学ぶグラフィックプログラミング教室」の大学生運営スタッフと中学生。参加した生徒は「とても楽しかった」と笑顔を見せる

子どもたちが「夢」を持ち実現できるまち

足立区の魅力は「人」にあり。
足立区は、子どもたちの夢の実現を全力で応援する。
人づくりは未来づくりだ。

6つの大学があるまち

2021年4月、足立区と埼玉県の都県境に位置する花畑に文教大学東京あだちキャンパスがオープンした。千住エリアにある5つの大学と合わせ、足立区は専門分野の異なる6つの大学に18,000人もの学生が通うまちになっている。

若者の流入により活気が生まれ、まちの景色やイメージも変わったが、足立区が大学誘致に力を入れてきた大きな狙いはもう一つある。それは、「6つの大学とまちがつながる」こと。区民に開かれた講座やイベント、産学官連携など、各大学の特色を生かした取り組みが進んでいるのも足立区の特徴だ。

様々な連携を通じて、大学生は学校だけでは学べない経験を積んでいる。一方、足立区の子どもたちは大学を身近に感じることで、夢や目標を持ち成長できる。足立区に6つの大学があるメリットは限りなく大きい。

東京藝術大学のワークショップ「藝大ムジタンツクラブ in きたせんじゅ」。子どもたちはクラシック音楽にあわせて身体を動かした

「体験」を増やす仕組み

子どもたちの夢を応援するために足立区が特に力を入れているのが「体験」機会の充実だ。大学が地域の子どもたちに提供する講座やイベントは年間460回に及ぶ。また、足立区では夏休みにものづくり講座や自然体験など250を超える体験活動を提供。さらに、18歳以下の子どもを対象に、銭湯の利用料や、有料の区有施設と体験講座等を無料とする「あだちワークわーく in Summer」を実施。「将来の夢や仕事につながる」「夏休みの自由研究に役立つ」講座を無料で体験することは、子どもたちの体験格差の是正や、自己肯定感の向上につながるきっかけとなっている。

夢をあきらめさせないまち

義務教育の中学校卒業時点で、市区町村の支援は途切れてしまうことが多い。しかし、そこで終わらないのが足立区。意欲があるにも関わらず、家庭環境などにより進学にハードルがある子どもたちの夢をバックアップする。

成績上位であるものの、家庭の事情などにより塾に通うことができない高校生を対象に、無料学習塾「足立ミライゼミ」を開講。また、2022年度から、返済不要の「給付型奨学金」、2025年度から社会人向けの「奨学金返済支援助成」をスタートさせた。他にも、大学受験にかかる費用や、大学入学時の教材費助成や大学在学中の就職活動にかかる費用の助成など、きめ細やかな応援が足立区の子ども支援の特徴だ。「どのような家庭環境であっても夢や希望をあきらめてほしくない」。強い思いで小・中学生では終わらない切れ目ない支援を展開している。

2025年には補助教材費や入学準備金等の、23区最大規模の子ども支援にふみきった足立区。すべての子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく、たくさんの体験機会に恵まれ、夢や希望を持って人生を歩める地域社会をめざし続ける。

東京電機大学との連携講座「ブレッドボードで電子回路製作！」。子どもたちは初めて触れる科学の世界に目を輝かせた

帝京科学大学の幼児と保護者のための遊び体験「のびのびプレイデイ」。積み木、ボールプール、さかなつり、折り紙など、たくさんのブースで、子どもたちが目を輝かせる

地域の「想い」や「やりたい」を地図に刻む

エリアデザイン

※魅力的なまちの将来像を描き、民間活力や区有地等を効果的に活用することで
イメージアップをはかる足立区独自のまちづくり手法

100年に一度の変化を迎える今

「まちが変わった」。数年ぶりに足立区に来た人はそう口を揃える。足立区は、鉄道高架化や大学開設といった大きな出来事が重なり、１００年に一度の変化のただ中にある。

区では地域の魅力向上のため、「エリアデザイン」を７か所で展開している。人口減少社会にあっても大規模マンションの開発や若い世代の人口流入が続く足立区。地域特性を活かした個性的なまちづくりがそのワケの一つだ。

竹の塚エリア

鉄道高架化により東西を分断していた開かずの踏切が解消（2022年）し、駅高架下に商業施設がオープン。「人が主役のまち竹の塚」をテーマに今後も駅前空間整備が進む。

花畑エリア

２０２１年の文教大学 東京あだちキャンパス開設をきっかけとして親水拠点・公園整備を実施。

江北エリア

区民念願の大学病院の開設に伴い、「住んでいるだけで自ずとこころもからだも健康になるまち」をテーマにまちづくりを展開。無電柱化や緑あふれる歩行空間の整備による「歩きたくなる」仕掛けや、野球場やサッカー場、運動器具の整備による「運動が身近」な仕掛けを計画・実現している。また、医療・介護・健康の拠点施設である「すこやかプラザ あだち」も２０２５年度にオープン。区民の健康を意識したまちづくりが進んでいる。

西新井・梅島エリア

図書館、ＮＰＯ活動支援センター、子育てサロンなどの機能を集約した、人と人を繋ぐこれまでにない新たな複合施設を設計中。

六町エリア

六町駅前用地の活用を検討中。区画整理事業により整備された街並みも魅力。

綾瀬・北綾瀬エリア

２０２５年に綾瀬・北綾瀬の両駅で駅前交通広場が完成。北綾瀬駅では５０店舗からなる商業施設「ららテラス北綾瀬」がオープンするなど、変化が続いている。

11年連続 穴場なまちNO.1※1

「千住」

新旧入り混じる「モザイクタウン」

江戸四宿の一つ「千住宿」として繁栄した千住は、現在も当時の名残として旧家や路地が多い。都会化しながらも、こうした昔ながらのまち並みが共存している姿が、千住の唯一無二の魅力だ。

駅前商業施設や大学誘致などによりまちに活気があふれる中で、古民家カフェなど、現存する建物を活かした魅力的で個性的な店オープン。こうした個店が路地裏にまで広がることで、今と昔が調和進化を遂げている。どこを歩いても新しい発見に出会えるオモシロ

やりたいが叶うまち

「千住の人は年齢問わず寛容。シェアハウスなんて言うと他では眉をしかめられたりするけど、千住ではシンプルに応援される。よくわからない活動も、賞賛はされなくても否定はされない」。千住で５軒のシェアハウス等を運営する山本遼さんは語る。

ユニークなアイデアで起業する若い世代が千住には多い。飲食店が充実していることや交通の便、まちの雰囲気が良いなどのほかに、多くの起業者から聞くのが「まちの人が応援してくれる」という言葉。

江戸時代から商いのまちとして栄えてきた千住には、いつの時代も多くの人が往来した。そんな時間を重ねてきたせいか、新しいヒト・コトを受け入れる風土があるのかもしれない。

山本さんは、千住で空き家を活用し、シェアハウスのほかギャラリー、シェア書店等を運営している

※1　「SUUMO住みたい街ランキング　首都圏版」の「穴場だと思う街ランキング」の1位に「北千住」が11年連続で選ばれている。2018年調査より調査方法を一部変更／「北千住」は駅名であり、その周辺エリアは「千住」と呼ばれている

ワケあり区、足立区。

プラスのワケを発信中！

区外へ届け！足立区の今

治安、学力、健康、貧困の連鎖。足立区ではこの4つをボトルネック的課題（解決しない限り区内外から正当な評価が得られない根本的課題）と位置づけ、一丸となって解決に取り組んできた。その結果、東京23区ワーストだった刑法犯認知件数はピーク時（2001年）から約7割減少。その他の課題でも大きな成果を挙げ、区政について「満足」と答える区民は過去最高の80.2%を記録した（2025年度足立区政に関する世論調査）。

一方で、区外からのイメージは依然として低いまま。特に「治安が良い」と思う割合は、区民で6割を超える一方、区外在住者は1割にも届かず、大きなギャップがある。

足立区出身のごみ清掃芸人、マシンガンズ・滝沢さんを招き開催したＰＲ発表会後、２６８メディアで取り上げられ、広告換算値は２億８千万円を記録した

こうした現状を打破しなければ、区民も足立区に誇りを持てない。そこでスタートしたのが、区外プロモーション「ワケあり区、足立区。」。マイナスイメージを逆手に取ったキーワードによりメディア・SNSで注目を集めることにより、足立区の「変化」や「プラスのワケ」を発信するプロモーション戦略だ。

良いところたくさん！

足立区をオススメするワケ

その他たくさん！くわしくは、特設サイトをチェック！

特色ある施策がたくさん

日本一をめざす！おいしい給食

子どもたちの“絶対味覚”を育む、旬の食材や天然だしにこだわった給食は、**小学６年生の９６％がおいしいと回答！**

レシピ本発売や、セブン-イレブンとのコラボ商品開発、映画タイアップなど全国的に大注目！

セブン-イレブンとのコラボ商品「えびクリームライス」

ビューティフル・ウィンドウズ運動

「美しいまちは安全なまち」を合言葉にオール足立で治安改善に取り組み、**2001年のピーク時から刑法犯認知件数７割減！**治安が悪いのは過去のことです。

あだちベジタベライフ

「ひと口目は野菜から」を合言葉に、900以上の協力店と一緒に野菜摂取に焦点を当てた糖尿病対策を展開！

OECD（経済協力開発機構）**が世界最高水準の取り組み**と評価！

まちが魅力的

背伸びせずに過ごせる居心地の良いまち

６つの鉄道が通る利便性や再開発による**都会らしさとともに、自然の豊かさ**も併せ持ち、下町らしさが残る足立区。「背伸びせず、自分らしく過ごせる」という声が多数！

公園天国

区立都市**公園面積は、東京23区で2位！**ミニ列車や、タコ、イカ、鬼、恐竜をモチーフにした遊具等、特色ある公園は子育て世代に大人気。

アートなまち

千住を中心に、**様々なアートスペースやプロジェクト**が展開されています。

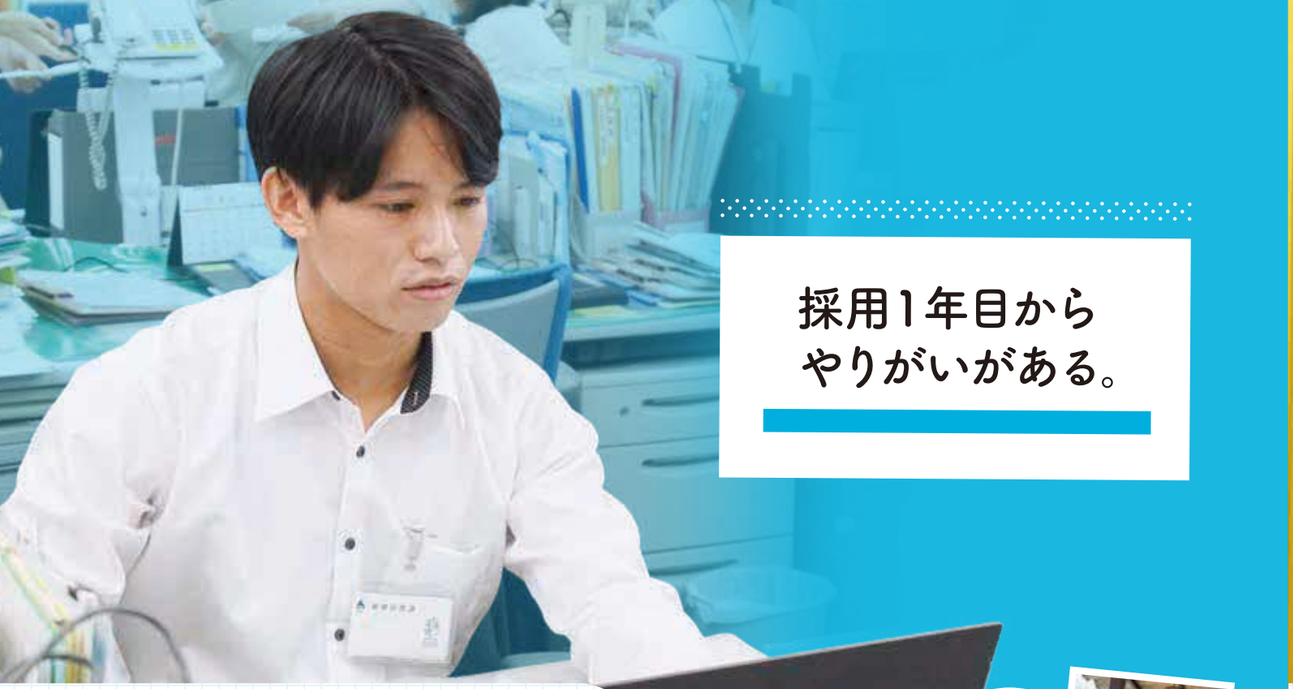
Memorial Rebirth 千住 2024 舎人公園
撮影：冨田了平

千住プロモーションを展開中

2025年は千住宿開宿400年！

北千住駅周辺エリアは、1625年（寛永2年）に「千住宿」として整備され、400年を迎えました。

これを機に、足立区のキータウン・千住の魅力を伝えるため、吉本興業の千原ジュニアさんにご協力いただき、千住の魅力を区内外へ発信しています。



採用1年目から やりがいがある。

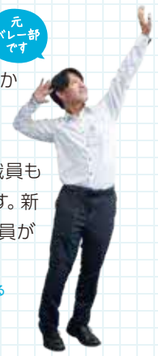
事務職

産業政策課 管理係
令和７年度採用

ー窓口業務だけじゃない！区役所の魅力ー

議会に向けた資料作成やチェック、スケジュール調整を担当しています。一般的に思い描く区役所の窓口業務とは異なり、職層が上の職員と資料などのやり取りをする仕事です。中でも魅力に感じることは、「部の全体像をつかめること」。部の事業の多くに目を通すことで、事業の反響や意見など「今求められていること」を肌で感じることができます。

ー新任職員だからこそ「迷ったら聞く」ー



新任職員という立場だと、仕事を進めていく上で、分からないことがたくさんあります。そんなときこそ、「迷ったら聞く」ことを徹底しています。これが確実かつ丁寧に業務を進めるコツだと考えています。先輩職員も親身に教えてくださるので、非常に働きやすい環境です。新任研修でも学ぶ足立区の「３０分ルール※1」は新人職員が報連相を行うための意識づけにもなっています。

※1　事故発生時、所属長から区長等に３０分以内にメール等で報告することで、組織的に対応するためのルール

志望動機

私があえて、あまり馴染みのない区を志望した理由は、施策に共感し惹かれ「大きな変化がある区」だと感じたから。特に「エリアデザイン」（5・6ページ参照）では足立区がどんどん進化していく臨場感を感じました。足立区を自分の力でもっと輝く足立区にしたい！その一心で足立区職員になろうと決意しました。

私のやってみたい

生成ＡＩを用いて業務の効率化を図りたい！
区役所の業務規模が拡張していく時代の中でも、うまく対応できる環境を築いていきたいです。

おやすみの日

趣味や旅行でリフレッシュしています。平日仕事を頑張った分、休日は好きなことをして過ごします。休暇が取りやすいので、連休を取って少し遠くまで旅行することもあります。

足立区全職員の年次有給休暇平均取得日数 **16.8日**（2024年度）
※年次有給休暇：年間20日　最大20日繰越し可能！

〈ある一日のスケジュール〉

6:30	起床
7:20	出発
8:15	登庁
8:30	業務開始 スケジュール＆メールチェック 資料確認＆校正
10:00	広報紙原稿受け取り＆各担当へチェック依頼 広報紙原稿確認＆校正
12:00	昼食
13:00	スケジュール＆メールチェック 関係部署との資料・スケジュール調整
15:30	資料作成＆校正 広報紙原稿提出 スケジュール調整
17:30	終業
18:15	帰宅
19:00	家事（夕食と翌日のお弁当作成）
20:00	趣味・勉強の時間！
23:00	就寝

足立区の可能性を 広げる仕事です。

土木職

都市建設課 事業推進係
令和２年度採用

ー自分のアイデアで挑戦できるー

まちづくりの中でも、道路や橋りょうなどの土木事業の調整、台風などによる風水害への対策、ドローン事業を担当しています。特に、足立区のドローン事業は東京２３区の中でも最先端かつ可能性が大きく広がっていく分野です。前例がないため手探りで進めることも多いですが、自分の提案を仕事に反映できることも。新しいことにどんどんチャレンジしていきたいです。

ー暮らしに役立つ仕事ー

採用1年目の頃、道路改修工事の現場を担当することになり、何をどう進めればいいか分からず不安でいっぱいでした。上司への相談や施工業者のアドバイスをもとに少しずつ理解を深め、無事に改修工事を終えると、地域の方から「道路がきれいになってうれしい」と感謝の言葉が。やりがいと共に、周囲と協力すれば前に進める、という自信にもつながりました。

志望動機

地域住民に最も身近な行政機関で、人々の生活を支え、まちの安心安全に貢献したいから。母親が幼少期を過ごした思い出の地でもあるので、その下町人情あふれる暮らしを守る立場になりたいと考えました。自分のルーツともいえる足立区のために、日々充実感を持って働いています！

私のやってみたい

ドローンのマッピング技術を活用し、区立公園や施設の情報をデータ化することによって、その維持管理をより効率的に進められるような仕組みを構築したい！

おやすみの日

職場の先輩たちとBBQや旅行に出かけ、にぎやかな時間を過ごしています。
友だちとお酒を楽しんだり、家でのんびり晩酌することも。
リフレッシュ時間を確保することで、気持ちを切り替えて前向きに働いています！

〈ある一日のスケジュール〉

6:00	起床
7:00	出発
8:00	登庁
8:30	始業 / メールチェック
9:00	国や東京都からの調査について 関係各課へ依頼
10:00	防災訓練の概要について 関係機関と打ち合わせ
12:00	昼食 （お弁当を持参、自席で食べています！）
13:00	午後の業務開始 / メールチェック
13:30	防災訓練に向けた現場確認 / ドローンテストフライト
16:00	帰庁 内容を確認後、反映資料を関係者と共有
17:15	終業
19:00	買い物・帰宅
20:00	映画鑑賞・晩酌
23:00	就寝

若手職員のホンネ

帝京科学大学前の隅田川のテラス

若手職員のホンネ

新しい基本計画のテーマ「やりたいことが叶うまち」は足立区で働く職員にも当てはまります。

日々奮闘している若手職員4名にも「やりたいこと」などを聞いてみました。

足立区ってどんな場所？

建築職

居心地がいいところです。入区前、私は都心から少し離れた場所で、自分の生活を充実させたいと考えてました。足立区は家賃も物価も安く、1年目職員の一人暮らしに向いている土地だと思ってます。

事務職

私も同じく足立区って本当に**「ちょうどいい」ところだと感じてます。**都会すぎず埼玉県出身の私も通いやすいのが利点。学生時代に北千住駅構内でアルバイトをしていたので、馴染みある土地でもありました。

保健師

私も北関東出身だったので、就職先は都心すぎない場所を探していました。中でも実家からつくばエクスプレスに乗って、一番よく来ていたところが北千住。足立区に拠点を移してからは、周りの**自然の豊富さ**も感じていて、住民が公園で集まったり散歩をしたりしているなかで**落ち着いた生活ができてます。**

保育士

私は生まれも育ちも足立区。個人でやっているお店が多く（飲食店、八百屋、弁当屋など）、「安くて美味しくて、人が温かい」**アットホームな感じが好きです。**また、竹ノ塚駅が最近とても綺麗になったように開発が進んでいる面と、千住の商店街のような古い街並みが両方あるところがいいです。

足立区役所で働いてみて意外だったこと

保健師

保健師が**本当にいろんな部署に配置されていることです。**学生時代の保健師実習先だった自治体では、保健センターでの仕事がメインでしたが、足立区では職員の健康管理や障がいのある方の部門、児童福祉など、様々な部署に配置され、政策的な部分にも関わっています。また、特定の分野（母子のみ、精神のみ）の担当ではなく、地区担当制でその地区のあらゆる世代（母子、精神、成人、高齢者）の仕事を全て担当できます。これによって、**多様な経験が積めて、知識をつけながら飽きずに仕事ができてます。**

事務職

区役所や公務員は残業がなく定時で帰れるというイメージでしたが、思っていたよりやることが多かったです。**区民の方が暮らしやすいまちをつくるためには、様々な仕事をしなければいけないんだなと感じてます。**現在の災害対策課では、区内で火事などがあれば土日でも出勤しなければならないことがあり、やりがいもありますが意外と大変だと感じてます。

建築職

建築職は緊急の対応や工期の締め切りがあるため、残業が多い時期もあります。一方で、**テレワークを実施している職員がいることは意外でした。**業務の進め方に合わせてテレワークができるので、もう少し仕事に慣れたら自分も実施したいと考えてます。

保育士

職場の雰囲気が想像以上に良かったです。先輩職員にベテランの先生が多く、お母さんのように何から何まで優しく教えてくれます。行事後などにアフターフォローもしてくれることがありがたいです。最初は先輩に声をかけるのを迷うこともありましたが、今となっては話しやすい存在で、**先輩たちに大切にされているなと実感してます。**ミスをしても、ただ叱るのではなく、ちゃんと説明して伝えてくれることも自分の成長につながってます。

わたしの「やりたいこと」

保育士

少子化が進む中で**「子育ての楽しさ」を伝えたいです。**普段子どもと接する機会の少ない方にも、子どもたちの成長の過程を伝えたり、触れ合える機会を設けたりすることで、一人でも多くの人に「子どもって可愛いな、大事だな」と感じてもらうきっかけを作りたいです。

保健師

今は地域で住民と接する「下積み」の段階と捉えていますが、将来的には**足立区全体に働きかけられるような施策や事業を作っていく部署で働きたいです。**これは、足立区が掲げる**「住んでいるだけで自ずと健康になれるまち」**というテーマに貢献したいという思いがあるからです。

建築職

「デカい工事」をやりたいです。同じ部署の中でも新築工事や全体改修など大規模な工事を担当している方がいて、その姿がとてもかっこいいと感じています。これから経験を積んでいき、いつか自分も大規模な工事を任される職員へと成長したいです。

事務職

日々の業務の中で「当たり前として代々やってきた」というやり方を一度見直せる職員になりたいです。前例踏襲やマニュアル通りにやるだけでなく、目的が分からなかったり、非効率だったりする部分を、**自分の着眼点で改善し、区民サービス向上につなげたていきたいです。**

足立区職員の働き方を見てみよう

1 1年目でも安心

初めて飛び込む世界には不安がつきもの。足立区には新人職員に対して1年間、育成担当職員がついてサポートする「新任職員育成担当者制度」があります。

区民の方と接することが多いので、職員としての引き出しの幅を広げられるような育成を心がけました。業務以外でもメンタルケアを行い、いつでも相談できる関係を築くようにしています。育成する側ではありますが、自分自身のスキルアップにもつながるものがあると感じています。

初めてのことだらけの仕事、東京での暮らし（地方出身のため）、たくさんの不安感で頭がいっぱいでした。そんな中、少しの変化でもいち早く気づいて声をかけてくれる先輩は、困ったときにいつもさらっと助けてくれます。笑顔で働く先輩は私の憧れなので、いち早く近づけるように頑張ります！

2 係長でも多様な働き方

「時差出勤」で育児時間にゆとりも

時差出勤で子どもを保育園に送迎。満員電車を回避でき通勤疲れがなく、良いコンディションで勤務できています。また他の職員より1時間遅れで勤務するので、最後の1時間は問い合わせが少なく、より集中して業務に取り組めています。

月2回の「テレワーク」でプライベートも充実

また、集中力を要する業務を効率よく進められるようになりました。通勤時間などがなくなり、1回のテレワークで約2時間の自由時間を確保。その分を睡眠時間や子どもと遊ぶ時間にあてられています。

3 上司や仲間の存在あって課長に

＜経歴＞
平成22年4月　主事（3年間：企画調整課）
平成25年4月　主任主事（5年間：建築調整課・都市計画課）
平成30年4月　係長（5年間：住宅課・建築審査課）
令和5年4月　課長補佐（2年間：建築審査課・エリアデザイン計画担当課）
令和7年4月～　課長（1年目：エリアデザイン計画担当課）

「転職からのキャリアアップ～経験者採用～」

長女が生まれたことをきっかけに、前職では少なかった家族時間を確保できるような働き先を探していた矢先に、現在の職を見つけて入区しました。働く以上は経験を積んで上をめざすべきという考えから、入区9年目で係長へ、またその7年後に課長に昇任。これまでのキャリアアップを振り返ると、とにかく上司や先輩、仲間に恵まれており、節目節目で出会う方々に育てていただき、今の自分があります。

こんな制度を導入しています

「複線型人事制度」
長期的スパンで特定の分野に在籍し、「スペシャリスト」を目指せます。

「ジョブローテーション」
入区から10年間で3つの職場を経験できます。

入区1年目！

新人職員に聞いてみました

1 足立区を希望区に選んだ理由は？

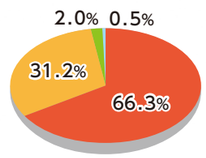
- 1位　地元・なじみ深い場所だから
- 2位　通勤しやすいから
- 3位　施策に魅力を感じたから
- 4位　住みやすいと感じたから
- 5位　説明会に参加して良かったと感じたから
- 5位　自然が豊かだから

2 足立区で働いて良かったことは？

- 1位　職場の雰囲気・人間関係が良い
- 2位　通勤しやすい
- 3位　ワークライフバランスが取れる
- 4位　やりがいを感じる
- 5位　研修が充実している

3 職場の雰囲気は？

- とても良い　（66.3％）
- まあまあ良い（31.2％）
- あまり良くない（2.0％）
- 良くない　（0.5％）

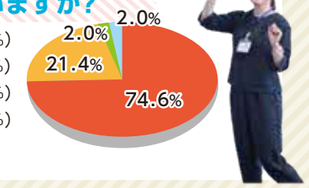


4 足立区に改善してほしいところ

- 1位　施設設備に新しいところと古いところで差があるところ
- 2位　ペーパーレス化をもっと推進してほしいところ
- 3位　職場が駅から遠いところ
- 4位　部署によって業務量の差があるところ
- 5位　人手不足の部署に人員を配置してほしいところ

5 新任職員育成担当者制度についてどう思いますか？

- とても良い　（74.6％）
- まあまあ良い（21.4％）
- あまり良くない（2.0％）
- 良くない　（2.0％）

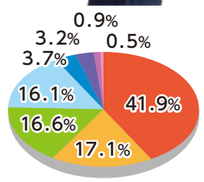


6 月のおおよその残業時間

- 平均10時間

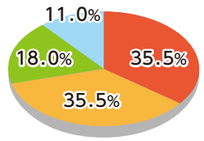
7 お昼ごはんはどうしている？

- 弁当を持参　（41.9％）
- 職場でお弁当を注文（17.1％）
- 給食（保育園勤務）（16.6％）
- コンビニ等で購入　（16.1％）
- 食堂　（3.7％）
- 外食　（3.2％）
- 食べない　（0.9％）
- 自宅　（0.5％）



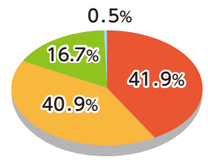
8 通勤時間

- 30分未満　（35.5％）
- 30分以上1時間未満　（35.5％）
- 1時間以上1時間半未満（18.0％）
- 1時間半以上　（11.0％）



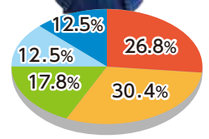
9 入区後の居住地

- 東京都以外の関東　（41.9％）
- 足立区内　（40.9％）
- 足立区以外の東京都（16.7％）
- 関東以外　（0.5％）



10 月の家賃は？（一人暮らしの方のみ）

- 6万～7万円未満　（26.8％）
- 7万～8万円未満　（30.4％）
- 8万～9万円未満　（17.8％）
- 6万円未満　（12.5％）
- 9万円以上　（12.5％）



足立区のコト

足立区ってどんなまち？
個性的な施設や特徴ある産業のほか、
イベントやまちの特色をご紹介します。

※1

※2

※3

※1　足立道具店企画・製作の卓上Aスタンド
※2　区内大学生と町工場のコラボで生まれた珈琲豆の麻布バッグ
※3　足立区生まれの知育トイ「リポブロック」

ものづくりのまち

工

足立区は東京23区で2番目に工場数が多い東京屈指のものづくりの街です。皮革、金属加工、プラスチックから縫製、印刷まで、多様な工場の熟練の職人たちが、優れた製品、技術を生み出しています。最近では区内大学生のアイデアで、異なる業種の町工場がタッグを組み新製品を開発するなどの取り組みも。

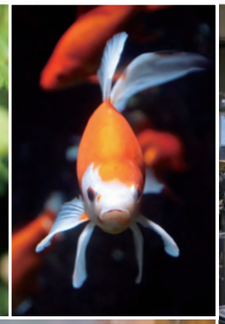
さらに、メイドインあだちを世界に発信する企業や、区内企業を牽引するリーディングカンパニーの創出に挑戦しています。

デザインの力で足立区のものづくりを応援する「足立道具店」の一戸さん（右）。金属加工の福澤製作所で

2つの市場がある食のまち

食

美味しくてしかもリーズナブルな飲食店が多い足立区。その理由のひとつには、市場の近さがあります。足立区には、水産物専門の「足立市場」と青果物と花きを扱う「北足立市場」があり、都内で２つの中央卸売市場があるのは足立区だけ。市場との距離の近さが、足立区の飲食シーンを支えます。足立市場は普段プロ向けの市場ですが、奇数月の第二土曜（1月は第三土曜）は「あだち市場の日」として一般客にも開放、美味しい魚を求める人で賑わいます。



ギャラクシティ

遊

遊びながら学べる。学びながら遊べる。

〒123-0842 足立区栗原 1-3-1　TEL.03-5242-8161
開館時間／9:00 ～ 21:30（こども体験エリアは 18:00 まで）

子どもたちの成長をバックアップする体験型複合施設です。

高さ7.5mのクライミングウォールや国内最大級のネット遊具など、体と頭を思いっきり動かして遊べる遊具が勢ぞろい。工作エリアでは、創造力や表現力を高めるものづくり体験などを楽しめるほか、日本文化に触れる「ジャパンフェスタ」、様々な仕事を体験できる「こどもおしごとらんど」などの人気イベントも。また、ドームの大きさが23区最大のプラネタリウムでは、まるで宇宙にいるような感覚を味わえます。

生物園

遊

様々な生きものと出会える。

〒121-0064 足立区保木間2-17-1　TEL.03-3884-5577
開園時間／9:30～17:00（2～10月）
（区立小学校の夏休み中は17:30まで）
9:30～16:30（11～1月）

南国の蝶が頭上を飛び交い、アマゾンの大魚ピラルクが泳ぐ水槽もある大温室。里山の自然を再現した昆虫ドーム。約35品種の金魚が泳ぐ大水槽。一年中ホタルを育てる飼育室…。意外性のあるユニークなゾーンがいっぱいの、動物園ならぬ「生物園」は、全国的にも珍しい施設です。

また、絶滅危惧種に指定されたツシマウラボシシジミの繁殖に日本で初めて成功するなど、その高い技術と真摯な取り組みも定評があります。

※4

イベントで賑わう北千住駅近くの千住宿商店街

活気ある商店とまち

商

魚屋、八百屋、精肉店や飲食店など、活気あふれる個人商店が軒を連ねる商店街。メディアで取り上げられることも多い足立区の商店街数は、69にも及びます。マルシェなどの新しい取り組みも。

地域で愛されるお店をもっと知ってもらいたいと始まった、みんなが選ぶテーマ別「あだちの輝くお店セレクション」では、毎年、足立区の魅力的なお店を広く発信しています。

※4　2025年「あだちの輝くお店セレクション」では、和食がおいしいお店を募集

足立区で江戸時代から農業を営む宇佐美農園では小松菜を区内の学校給食にも提供。写真は7代目宇佐美一彦さん（右）と8代目大（まさる）さん（左）

都市農業のチャレンジ

農

足立区の農地面積は東京23区中3位、小松菜や枝豆などが特産です。新しい都市農業にもチャレンジしており、特に学校との連携はユニーク。おいしい給食日本一をめざす足立区の給食に足立産の野菜を取り入れる取り組みのほか、収穫体験などを受け入れ、小・中学生に地域の農業や豊かな食を伝える農家もあります。

区内小学校では、農家からアドバイスを受け、江戸東京野菜「千住ネギ」の採取した種を下級生に引継ぐ栽培授業も行われています。

足立区特産の小松菜

足立タイムトラベル（さくっと）

現在の足立区が位置する場所は、かつて海辺に接する低湿地帯で、葦がたくさん生えていたことから「葦立ち」と呼ばれ「足立」になったという説があります。

1594年（文禄3年）、隅田川（当時の荒川）に最初の橋として千住大橋が架かると、多くの人たちが千住を往き交うようになります。

千住は日光と江戸を結ぶ日光道中の初宿「千住宿」として、多くの旅人でにぎわいました。松尾芭蕉が「おくのほそ道」へと旅立ったのも千住です。

江戸時代には、湿地だった東部にも新たに人々が住み始め、明治時代を迎える頃には、足立区の大部分は米や野菜をつくる農村地帯となりました。

大正時代になると数多くの工場や住宅ができ始め、人口が急増。

「足立区」は1932年（昭和7年）、旧東京市に編入された際に誕生。1947年（昭和22年）に東京23区のひとつとなりました。

江戸時代からアートのまち

現在「アートのまち」と言われる千住ですが、加えて近年、千住を中心に、江戸・明治期に描かれた琳派作品などの美術品がぞくぞく発見され、美術界からも注目を集めています。豊かだった商家の旦那衆は、その経済力で絵師や文人たちの活動を支え、掛け軸や屏風などの美術品を普段の暮らしの中で楽しんだのです。これらの作品を展示するため、2025年、足立区立郷土博物館は、全国でも例を見ない「美術博物館」へとリニューアルしました。

村越向栄
（むらこしこうえい）
四季草花図屏風
（しきそうかずびょうぶ）

区のシンボルマーク

足立区のAを元に、都市・自然・人間の調和を、水と緑のカラーで未来への飛躍を表現しています（1991年制定）。

区の紋章

「足立」の足の字を図案化したものです（1958年制定）。

足立区役所

東京で一番早い大規模花火大会！

「足立の花火」は1時間に約13,000発が打ち上がる超高密度花火。荒川河川敷に座ると目の前に広がる花火が、心と体に響き渡ります。
このほか、「舎人公園千本桜まつり」「しょうぶまつり＆世界の食広場」「あだち区民まつり」「光の祭典」と、1年を通して多彩なイベントを開催しています。

区立学校数102校

足立区立の小学校数は67校、中学校数は35校。合計102校※1です。小中学校が連携して、子どもたちが健やかに育つ環境づくりに取り組んでいます。

※1　2025年4月1日現在

図書館が多い

どこでも本に触れられるまちをめざす足立区。図書館数は15館と23区で3番目に多く、ほかにも大学や区施設などに、貸出・返却ができる7つの窓口があります。

公園面積が広い

水と緑が身近にある足立区。足立区立の都市公園面積は224万4,015㎡、その広さは23区第2位※2です。

※2　2025年4月1日現在

区の木

さくら

区の花

チューリップ

友好自治体

新潟県 魚沼市
長野県 山ノ内町
栃木県 鹿沼市

姉妹都市

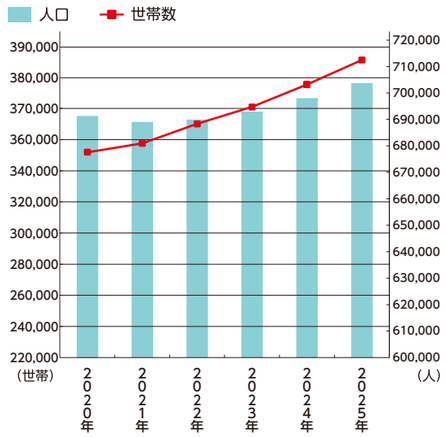
ベルモント市
（オーストラリア）

Basic Data

足立区の世帯数	386,135世帯（2025年11月1日現在）	
足立区の人口	703,645人（2025年11月1日現在）	23区中第4位
足立区の面積	53.25km²（2025年11月1日現在）	23区中第3位

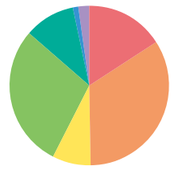
世帯及び人口（各年11月1日現在）

鉄道網の発達、西新井地区・綾瀬地区・千住大橋地区などの大規模集合住宅開発や大学の誘致などが進んだことにより、他自治体から足立区に移り住む人が増え、人口はこの5年間で約12,000人増加しました。



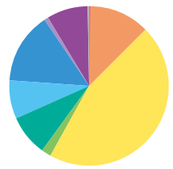
令和7（2025）年度当初予算（歳入）

総　額	3,472億8,248万円
特別区税	567億4,270万円
特別区交付金	1,169億円
その他一般財源	244億3,441万円
国・都支出金	1,119億5,563万円
繰入金	258億7,303万円
諸収入	36億3,068万円
その他特定財源	77億4,603万円



令和7（2025）年度当初予算（歳出）

総　額	3,472億8,248万円
議会費	9億5,803万円
総務費	433億1,135万円
民生費	1,642億4,342万円
産業経済費	72億1,415万円
環境衛生費	244億8,162万円
土木費	301億675万円
教育費	467億4,963万円
公債費	27億3,048万円
諸支出金	270億8,705万円
予備費	4億円



※歳入・歳出については、表示単位未満を四捨五入し、端数調整をしていないため、合計などが一致しない場合があります